

吐迷度の時代は菩薩の後を受けて貞觀二十二年（六四八年）^{二三}に終れり、此の時代に於て回鶻は附近の諸部と共に薛延陀を滅し、其の地を掩有せしが、然も尙自ら此等の諸部を統ぶるには至らず、之と相携へて唐に附し、各々其の州縣となるに至れり、舊唐書廻紇傳の記する所によれば

廻紇酋帥吐迷度、與諸部大破薛延陀多彌可汗、遂併其部曲、奄有其地、貞觀二十年南過賀蘭山、臨黃河、遣使入貢、以破薛延陀功、賜宴內殿、太宗幸靈武、受其降款、因請廻鶻已南置郵遞、通管北方、太宗爲置六府七州、府置都督、州置刺史、府州皆置長史司馬以下官、主之、以廻紇部爲瀚海府、拜其俟利發吐迷度、爲懷化大將軍兼瀚海都督

と記し、新唐書回鶻傳には

菩薩死、其酋胡祿俟利發吐迷度與諸部攻薛延陀、殘之、并有其地、遂南踰賀蘭山境諸河、遣使者獻款、太宗爲幸靈州、次涇陽、受其功、於是鐵勒十一部皆來言、延陀不事大國、以自取亡、其下屬駭鳥散、不知所之、今各有分地、願歸命天子、請置唐官、有詔張飲高會、引見渠長等、以唐官官之、凡數千人、明年復入朝、乃以回紇部爲瀚海、多覽葛部爲燕然……皆號都督府……皆以酋領爲都督刺史長史司馬、卽故單于臺置燕然都護府、統六都督七州、皆隸屬、以李素立爲燕然都護

と記せり、舊唐書に薛延陀の多彌可汗と記せるは、新唐書薛延陀傳の頡利俱利失薛沙多彌可汗、册府元龜封册篇の沙耽彌葉護にして、夷男の嫡子なる拔灼の可汗としての稱なり、夷男の死せるは貞觀十九年九月^{二四}にして、其の後拔灼は夷男の庶子曳莽を襲殺して可汗と成りしものなれば、回鶻が之を滅ぼし、通鑑に貞觀二十年六月とせるを